

第6次瀬戸市総合計画の進行管理に係る課題について (案)

第6次総合計画は、「住みたいまち 誇れるまち 新しいせと」を将来像に掲げ、将来像の実現及び3つの都市像の達成に向けて、10年間のまちづくりを推進している。

計画期間中、新型コロナウイルス感染症の拡大をはじめとして、様々な社会変化が生じたものの、見直しを図らず計画を推進してきた。

第6次総合計画の進行管理に係る課題について、予算要求や決算報告等で実際に事業評価を行っている係長級職員で構成する、次期将来計画検討会議メンバーからの意見も踏まえて、以下のとおり整理した。

1. 主な課題

○基本計画の計画期間が10年間で、柔軟な政策推進が図れない

- <主な意見> ・ 10年間という長期設定により、社会変化への迅速な対応が困難
- ・ 中期事業計画に引っ張られ、指標や重点項目の柔軟な見直しができない
 - ・ 組織改編や事業再編が計画体系に反映しにくい など

○施策体系が職員や市民にとって複雑で直感的でない

- <主な意見> ・ 政策・施策の階層が深く、体系が複雑で分かりにくい
- ・ 都市像の表現が抽象的で、直感的に理解しにくい
 - ・ 「3つの都市像＝施策の大綱」の概念が理解しにくい
 - ・ 個別の事業がどの都市像にどのように寄与するのかが見えにくい
 - ・ 「重点事業→都市像→将来像」のつながりが実感できない など

○「重点」＝「本当に集中して取り組む分野・事業」になっていない

- <主な意見> ・ 重点項目が多く、「重点」が見えない
- ・ 重点項目であっても予算配分が優先されるとは限らない
 - ・ 10年間に重点項目の見直しが困難 など

○指標の設定が適切でない

- <主な意見> ・ 総合計画と個別計画で同様の指標を管理している
- ・ 指標が多いため、重点項目が見えにくく、進行管理に係る事務が増大
 - ・ 外的要因の影響が大きく、事業効果が指標に反映されにくい
 - 例) 製造業の元気さ（製造品出荷額）等は景気動向の影響が大きい など

○事業レベルの評価に留まり、政策レベルの評価ができない

- <主な意見> ・毎年度6月に実施している決算報告が事業報告化している
- ・都市像や政策が分野横断型になっており、評価が困難
 - ・将来像指標に目標値がない
 - ・アウトプット（実施件数等）が中心で、アウトカム評価が弱い
 - ・政策レベルの評価が事業評価と一体的に実施できていない など

2. まとめ

第6次総合計画は、将来像と3つの都市像という構造で構成され、各部の事業は網羅的かつ横断的に位置づけられていた。その一方で、

- 10年の長期計画で政策に柔軟性がなく、政策・施策の階層が深い複雑な体系であった。
 - 分野横断型の施策体系で、網羅性はあったが、真に注力すべき重点事業が不明確であった。
 - 指標は多く設定されているが、政策の進捗把握ができる効果的な指標が少なかった。
- という特徴が整理できる。

3. 次期将来計画策定に向けて

主な課題を踏まえ、次期将来計画の策定にあたっては、下記の3つの項目を意識した施策体系や進行管理の手法を検討していく。

①社会変化に対応できる計画期間とし、分野別に政策方針を設定する

- ・将来像はシンプルで分かりやすい内容とする
- ・基本計画（政策方針）は柔軟に見直しができる概ね4年毎の期間とし、階層を簡素化した体系とする
- ・施策体系は、市民や職員に分かりやすいよう、分野別の体系とする

②重点プロジェクト・注力事業の明確化・柔軟化を図る

- ・基本計画期間中に重点的に取り組む項目を重点プロジェクトとし、重点プロジェクトを構成する事業を決算報告の対象事業とする
- ・毎年度集中して取り組む事業を注力事業とし、社会動向の変化や将来展望を踏まえ、柔軟に見直すこととする

③指標を再整理し、事業評価と政策評価を一体的に実施する

- ・基本計画に設定する指標は少数精鋭のアウトカム指標とする
- ・事業評価は個別計画へ委ねる
- ・評価する個別事業数を削減し、政策評価と一体的に実施する
- ・毎年度、決算報告時に事業評価と合わせて政策評価を実施し、その結果を踏まえた事業の見直し、予算要求を行う
- ・決算報告書を通じて、市議会において事業評価、政策評価を行い、次年度の予算編成に反映する